

「ぶらっぶ座」 女流俳人特集

せせらぎに身をゆだねたる朱一葉 あかいちよう

プチトマト

先駆けて翼あつものはばたけよ

はこちゃん

重症株成人の子等の無垢の笑み むく

ナミねい

魍魎の思ひ泣くらむ虎落笛 しのもがりぶえ

品子

百万通人の哭きしや百千鳥 ひやくまんべん な ももちどり

ゆ



プロップ・ネットにおいて、私の主催するユーザーボード「ぶらっぶ座」というのがあります。このユーザーボードは主に俳句を扱っており、皆さんにご投句を願っております。不定期に「電脳句会」という、俳句結社の句会やテレビなどで行われている句会をパソコン通信でやろう、というものを企画し、過去三回行いました。ここではなぜか女性の方が強く、私などは肩身の狭い思いをしております。

初めに揚げる二句は、「電脳句会」の第一・二回で、大賞に輝いた方々の作品です。それに続く三句は、過去「ぶらっぶ座」にご投句してくださった作品の中から、厳選しました。どなたも力量は並々ならぬものがあり、選句は大変でした。なお、選句には私の感性で選びましたことをおことわり申しておきます。



夏の俳句コーナー

夏果て

七月のようやく晴れてロツク聞く

夏はロツクンロール……

グラスへと徐々にとけ込む夏の果て

夏の疲れはグラスへと……

當麻寺

當麻寺己がかひなは汗を……

ようやく境内に着き……

苦かりき抹茶の緑ストローへ

お干菓子に甘く……

猫の瞳

緑なす風の渡りて猫とぬる

猫の息吹は暖かく……

風薫る猫の瞳の黒きこと

瞳は妖しくて……

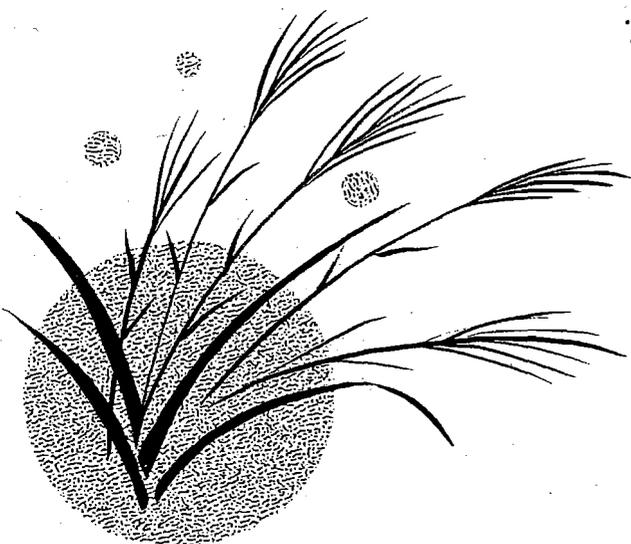
秋冷の

秋色のワインは静かジャズ響く

ワインの向こうは……

秋冷のぼつかに立てり大坂城

大坂城は凜として……



俳句は簡単なようで難しい。難しいようで簡単。その人に合った俳句をお作りになればいいのです。日々の生活の些細な出来事を十七文字にスケッチします。その季節を感じ、日々が織りなす情景を詠むことにより、新たな感動、新鮮な風景として、あなたのお目に、お耳に映ることでしょう。

五月十四日に奈良県にある當麻寺を訪れました。當麻寺には中将姫伝説が伝えられています。弟の菩提を弔うため、牡丹の茎で極楽曼陀羅を織り、往生しました。この法会は練供養と呼ばれ、中将姫の命日でもあります。



1週間後にせまったアメリカ旅行の代金を銀行振り込みした翌朝に、私は交通事故に遭い、救急車で病院に運ばれました。

文：SUNちゃん

前回のアメリカ旅行の時も、10日後に迫った旅行の代金を振り込んだ翌朝にお腹が痛くなり、盲腸手術という体験を持つ私。今回は幸い入院は免れたけれど「松葉杖」と一緒に帰宅、という有り様。アメリカは、方位が悪いとしか思えない。松葉杖を使って歩くことは、筋肉<弱い>&体重<重い>という私にとって、たったの5歩でへとへとになってしまう、大変な出来事であった。

《ショッピング》

腫れ上がった足と包帯のため、手持ちの靴が履けないので、友人とショッピングモールにサンダルを買いに出掛ける。まず受付で車いすを借りるが、以前、短時間ではあるが乗ったことがあるので、大きな問題はないはずだった。いざ乗って、こぎだす。人の視線が気になる。これは予想していたことだ。様々な顔のいろいろな表情があるものだ……

腕が疲れて、操作がうまくできなくなってきた私に、友人が「押そうか？」と聞くので、お願いすることにした。

「怖い！」

人が迫ってきて、人の流れが急速に加速したように感じる。

「とめて！」

車いすは友人の歩くスピードで進む。友人は最大限の配慮をしてくれるが、彼の視線の高さから得られる情報だけでは私には充分ではない。

「遠い！」

エレベーターが少なく、真下に見える店に行く

にもかなり遠回りしなくてはならない。エレベーターにつくまでの階段やエスカレータが恨めしい。デパートの閉店時間になり、車いすを返す。

いくつかの大きな問題と、数え切れない理不尽な思いがアタマを駆けめぐる。私が本を読んだり、話を聞いたりして理解していると思っていたことや、自分自身が配慮していると勝手に思っていたことは、「深さ」の点で充分ではなかったと身を持って感じた。「わかったふりをするな」と言われるかも知れないが、この日私は「経験すること」「感じること」「考えること」は、一人一人違うのだ、と再認識させられた。

《「お願い」は

「おねだり」より難しい?》

なんとか(?)日常生活を始めた私は、自分自身の身体が思うように動かないことにイライラし始めた。ちょっとしたことも自由にならない。意地を張り、無理をしてもできないことが、動けば動くほど出てくる。

自分の気持ちの中で調整できることは、先送りにしたり諦めたりした。しかし、そうはいかないことのほうが社会生活には多いようだ。しかも「望みのボーダライン」を下げることは容易ではない。「したいこと」「しなければならないこと」をお願いする場面が急激に増えてきた。

私は「お願い」する時はいつも相手が快く、望みを叶えてくれると信じていた。だって「おねだり」してる訳じゃないんだもの……。

ところが「お願い」が増え、それが叶えられない事態が続くと、だんだん「疑心暗鬼」がつのり、頼み難さが増していく。相手のちょっとした表情の変化も「見逃すまい」という心境になる。まして相手の顔色が曇ったり、迷ったりされると落ち着かなくなり、断りづらいために無理をしていることが分かると苦しくさえてくる。

そのくせ私は、相変わらず「快く承諾してくれる相手」を探し続けてたりするもんだから、始末が悪い。

ともあれ、アメリカ行きを前にして「こんな状態で、言葉の通じない国を旅行できるのか？」と、気持ちの揺れがドンドン大きくなっていった。

《電動カートを前に、 合理性について考える》

結局、前回同様「お金もつたない」という単純な理由でアメリカ行きを決定し、成田、ダラス空港では車いすに乗せてもらって、なんとか移動できた。

アメリカの空港内には、例の車いすマークの付いた電動カートが、通行人を退かせる勢いでブイブイ走っている。基本的には障害者、お年寄り、子ども連れを乗せてゲートからゲートの移動をしているのだが、空席があつて運転手がOKすれば、「乗りたい」と声をかけた人は誰でも乗れるようである。私は、この手の秩序ある合理性が好きだな、と思う。

以前、ロスアンジェルスの子供遊園地のトイレに並んでいたとき私の番が来て、車いすトイレが空いた。私は使用してはいけないものと決めつけて立っていたら掃除係の人に「優先的に使用するべき人が居ないのだから、そこを使えば良い」と言われた経験があるが、こんな合理的な考え方が日本の公共施設にも浸透すればいいなあ。

障害者専用の特別な物というより、不便を感じる人が誰でも使える設備を増やした方が、共有感によって、大切に保たれるのじゃないか？と思う。

目的地のナッシュビル空港に到着し飛行機から降りたとき、それまでと違って、歩くことが自由にならない私のためのサービスが用意されていなかった。航空会社の連絡ミスなのか、それとも降りてしまうとサービスの対象ではなくなるのか・・・。

しかも空港の端の方のゲートだったため、出口までの距離が相当ある。しかも、しかも、長旅ですっかり疲れている。

ここでも、車いすマークを付けた電動カートが走り回っていた。運転しているおじさんが、チラッとこちらを見る。「乗せて！」と言いたいのに、勇気が出ない。また、おじさんがチラッと見る。言えない。表情だけは、乗りたい気持ちを精一杯表していたと思う。そうしているうちにヘトヘトになり、出口にたどり着いた。

英語が通じなくても、声を発すればおじさんは乗せてくれた、と思う。私は、おじさんが私の表情だけで状況を理解し、親切に声を掛けてくれることを期待していた・・・。でも、おじさんは「親切にも」私を心配しながらも、最後まで声をかけないことで私の意志を尊重してくれたのだ。

アメリカでは、お節介的サービスは「プライバシーの侵害」につながる、と以前アメリカ在住の日本人から聞いたことを思い出す。

私はこの少ない体験からではあるけれど、お互いの立場が理解しにくい状況の中で「相手の度量と良識と配慮」に過度の期待をせずに、自分の良識の範囲で自分の考えを伝える行動を起こしたほうが、すっきりするんだなあと思った。

暗黙の内に理解したような気持ちになって結局すれちがうより、行動を起こして、その上で納得した方が「合理的」ではないかなと・・・。

とにもかくにも、アメリカ旅行から帰ってまだ足の痛みが取れない状態が続く中、今までと違った角度と目線で生きている自分を感じる、今日この頃である。

クマさんの

番外編

コンピュータ作曲入門

ーウエルカムパック・モニターレポートー

今回は、クマさんの講座は1回お休みして、前回募集しましたウエルカムパックのモニタ報告です。応募のあった中から“KAWA”さん、“コム”さんのおふた方、それと編集部を代表して(?)体験使用した“げんた”の3人が報告します。加えて、今回のモニタ報告に関して技術指導をしていただきました“つっぱりくん”が、プロップ・ネットのUB124[音楽ごっこしよう]ボードに書き込まれた、コンピュータミュージックに関するレクチャーを紹介します(編集)。

◆モニタ報告 KAWA

私がウエルカムパックのモニタリングをしようと思った理由は、昔から音楽が好きだったし、家のパソコンにもサウンドモジュール(音源)が付けてあったからである。それと、ヘタながら作曲のまねごと昔、少しだけしていたことも応募した理由の一つだ。

ウエルカムパックのモニタになる以前の私が持っている音楽ソフトには、ローランド社のパッケージセットの中に入っていたミュージ郎と、有名なフリーソフトのMIMPIがある。MIMPIはプレイバック用なので、音符のデータを入力したり編集するシーケンスソフトはミュージ郎だけだった。好みの問題だが、ミュージ郎はマウスを使って音符を張り付けていくだけなので、入力そのものはこちらの方が簡単だが、細かい設定となるとウエルカムパックの数値入力の方が操作しやすいと思う。特に入力したデータを読み返すときなどは数値入力が有利だと思う。

データの演奏中は、パートを指定すると、楽譜を自動的に追いながら演奏してくれるのが嬉しい。付属しているデモ曲の4曲以外にも、私の持っている[RCP]の拡張子が付いている曲データ(ウエルカムパックで直接扱うことができる音楽

データファイルは、[RCP]の拡張子が付いたファイルである)を演奏させてみた。が、そのほとんどは途中で演奏が途切れてしまう。これは、このソフトで演奏できるステップ数が限られているからで、フルバンドの楽曲を入力及び演奏するのは無理があるようだ。それでも、器楽曲の小品を入力及び演奏して楽しむ分には、今のままでも十分だと思う。が、仮に私がコンピュータミュージックを本格的に始めるとしたら、やはり、ソフトをグレードアップしたいと考えるだろう。

画面の表示は、操作中に表示されるメッセージやファンクションキーの画面表示、あるいは楽器名など、そのほとんどが英語で表示されている。これも好みの問題だが、私は日本語で表示した方がわかりやすいように思う。

入力は、いろいろな入力方法があり、覚えるのが大変だが、覚えてしまえば便利だと思う。特に、コードのワンタッチ入力は、転回形も作れるし、慣れれば便利である。

それといろいろな機能があり、操作手段など忘れることもあるので、ある程度、その場に応じて操作説明をHELPキーで見れるようになっていけばよかったと思う。

マニュアルについては、私は目が悪いので、少し字が小さい箇所は読みづらかった。それと、ある程度音楽の基本がわかっていることを前提に書いてあるように思うので、まったくの初心者には少し難しいように思う。加えて、ハードディスクでこのソフトを使うのなら、ある程度MS-DOSの基礎知識も必要だろう。

特に注目したい機能は、打ち込んだデータを楽譜形式でプリントアウトできることだ。これなら、手が不自由な人でもキーボードさえ打てれば、綺麗に楽譜が書けるわけである。欲を言えば、五線符の上にコードネーム、下に歌詞が付けられるようになっていれば、もっといいだろう。

つっぱりくんの ワンポイント・レクチャー

Lesson 1

「音源（発生）方式」と「音源規格」は別のもの

LA音源というのはRoland社の、MT-32というMIDI音源で採用されている電子音の合成方式の名称です。Linear（直線）Arithmetic（算数）Synthesis（合成）音源の略で、「線形演算合成方式」と訳されています。ま、とにかく音づくりの方式の名称です。

一方、GS音源とか、GM音源というのは、音色配列の仕様を標準化したものの規格（フォーマット）名称で、どんな発生方式の音源でも（たとえば、FM音源、LA音源、PCMM音源、AWM音源、PD音源・・・と、同一メーカーでもいちいち上げていたらきりがなくいくらかの音源（発生方式）があります）同じ楽器編成で音を再現できるための決まりにのっとった音源の名称です。よく区別して、理解しておきたいものです。（だから、LA音源のGS/GM音源だってあり得るわけです）

そして、GS音源とGM音源とは、再現する楽器編成に於いては間違いなく同じなのですが、各楽器の音色のバリエーションが、複数用意されているものを含んでいるのを、GS音源という点が多少違うところです。（例えば、アコースティック・ピアノでも、ちょっとベーゼンっぽい音にしたい、という風な場合の選択肢の幅があるわけです。ベーゼンドルファーの音が出せるか否かは保証の限りではない！）また、これを持って、GSはGMの上位互換といっているわけです。

ウェルカムパックに限らず、殆どのMIDI・シーケンサー・ソフトはGM規格が設定される前に出ていた音源（MT-32等）でも、プログラム・チェンジを行い、データの求める楽器に設定対応させて使うことができるわけですが（普通は、コンバーターを利用するのが便利）GS/GM音源対応以外の音色の少ない音源で、他人のデータを使う場合はどうしても問題が生じる可能性が高くなります。自分で入力して使う分には、どれだけの音色が使えるかは、解っているのですから（理解していればですが^^;）どんな楽器の音源を利用しようとも、問題が起らない範囲で使えば良いわけです。



◆モニター報告 げんた

編集部でこのモニタープレゼントの企画が決まったときは、まだ気付いていなかった。コンピュータミュージックを楽しむには、それなりの機材と知識が必要だということ。まずMIDI音源がいる。これは誰でも持っているというものではない。実際、モニターを募集してみると、「モニターはしたいがMIDI音源がないので・・・」という人が多く、思ったほど応募者が集まらない。音源も一緒に編集部からお貸しできればよいのだが・・・。そんな中、プロップ・ネットでおなじみの“つっぱりくん”から、手持ちのMIDI音源を、持っていないモニターの方のためにと提供をいただいた。そして、おかげで私もMIDI音源をお借りしてモニターに参加することになった。モニター報告を募集する側も、ある程度理解がないと記事にできないということで、理由は純粋な音楽の興味からは少々離れていたが。

そういうわけで、私にはコンピュータミュージックの知識は全くなかった。実は、MIDI音源というものも実物を見るまでは、どういうものなのか理解できていなかった。実際使い方は簡単、

RS232C端子からMIDI音源に線を接続するだけなのだが、初心者には、コンピュータミュージックは難しいという漠然としたイメージがある。今回のモニターの企画のように、短期間でも体験できる機会があれば、案外すんなりと理解できると思う。

さて、ウェルカムバックの使い方を説明書を見ながら覚えてみた。キーボードから音符を入力するやり方は初心者にもわかりやすいと思う。もっともほかのソフトは使ったことがないので、比較はできないが。ただ、ピッチなどの細かい設定に、入力する数値と実際の音の変化の具合がマニュアルに載っていなかったため、この部分は分かりにくかった。何曲か楽譜を見ながら入力してみたが、ウェルカムバックの500ステップの保存制限では、ほんの短い簡単な曲しか入力できない。この辺は、ウェルカムバックは、上位版であるレコンポーザへのバージョンアップが前提の体験版なので、致しかたない。

また、ソフトの仕様とは直接関係ないが、GM対応のMIDI音源でない場合、ソフトの表示する楽器の種類と実際の音が違ってくる。この辺も、初心者には混乱するところである。

つっぱりくんの ワンポイント・レクチャー

Lesson 2

MIDIデータのさまざまな入力方法

さて、ウェルカムバックの入力方法は、げんたさんのやっている、数値入力という方法の他、実際に、MIDI・キーボードの、MIDI・OUT端子を、MIDIインター・フェースのMIDI・INPUT端子につないで、（ふー、でも、正確に表現するとこういうことなんだ）演奏して入力する方法（リアル・タイム入力）もあります。

残念ながら、げんたさんはこの方法が使えません。というのは、ソフト・ウェアの方は対応しているのですが、MIDI・インターフェースがMIDI・OUTしか無く、MIDI・INPUTの付いていない、私の自作の物だからです^_^。（¥1,000位の部品代で簡単にできるのだ！）

MIDIデータの入力方法には他にもたくさんありますが、もう一つの代表的な入力方法は、マウスを使って音符を五線譜に張り付けていく方法です。

ミュージックファミリーのシーケンス・ソフトがこれです。この方法は、初心者には非常に分かりやすいのですが、どんなに慣れても入力スピードは、あまり早くはならないのが難点かもしれません。(50音配列のワープロとJIS配列のそれとの比較を想像比較してみるとこの意味が解り易いと思います。もっとも、50音配列のワープロなんて、極一部だけ)

その他、面白い入力の仕方として、マイクで歌えば、MIDIデータに変換してくれる、鼻歌入力とでもいう「ピッチ・トゥ・MIDIコンバータ」というものもあります。(残念ながら使ったことがないので話だけ・・・^^)

リアルタイム入力で、数値エディットという手法をできれば早く何とかしたいが、まだまだ先は長い。



◆モニタ報告 コム

もともと、パソコンを始めたきっかけというのが、コンピュータを使って音楽演奏ができないだろうかということに興味を持ったことだった。

初めて手に入れたパソコンには、PSGという音楽演奏用の発信器が内蔵されており、簡単な命令で矩形波による音楽演奏とホワイトノイズを使って、各種の効果音などを合成することができた。ただし当時は、視力のない私にとって、画面の文字を確認する手段がまったくなかった。音声合成装置など陰も形もなかった時代。それでも、音楽である以上、演奏させてみることで、プログラムが正しく入力されたことは確認できた。途中で、1カ所でもエラーが発生した場合は、またははじめからやり直しということにもなった。

はじめの内は、これで楽しんでいたが、音色の変化や音楽表現に限界があり、もっと本格的にやりたくなってきた。

MIDI規格が一般化するにつれ、パソコンにMIDI音源を接続して、音楽演奏ができるハードやソフトも出回るようになった。音声合成装置によって、画面を確認できるソフトウェアが開発さ

れ、パソコンも楽に扱えるようになってきたが、画面の音声化ソフトには限界があり、市販ソフトのごく一部の物しか使用できず、音楽ソフトもその大部分のソフトの範疇はんちゆうにあった。しかし、音声ソフトも度重なるバージョンアップの結果、やっと何とかウェルカムパックが使えるようになった。

さて、ウェルカムパックを初めて起動してみた。まずは、インストール作業であるが、画面に表示されるメッセージは、音声ソフトによって、その場では音声出力してはくれない。したがって、画面に表示されている状態で、音声ソフトの全画面読み上げ用のキーを押して、画面全体を総て確認する必要がある。はじめのメニューのように、該当項目がリバース表示される場合は、カーソルを移動させることにより、そのカーソル行のメニューを読んでもくれるが、その後のディスクの挿入の指示や確認事項については、その場では読み上げてくれないので、その都度、画面を確認するための操作が必要になる。

さて、そのように少しめんどうではあるが、何とかインストールが完了。ソフト本体を起動することができた。この場合もメニューのどこにカー

ソルがあるか確認するためには、その都度カーソル位置の行を読み上げるためのキーを押すことになる。とくに、1行に複数の選択項目がある場合は、カーソルの左側と右側の画面読み上げキーを使って、調べる必要がある。

曲データをロードする時のドライブやファイル名などの確認には、カーソルの右側を確認することで行える。

ただし、はじめの設定の中での、曲のKEYの設定については、CとかDなどと読み上げてくれなくて、7740とか773Cなどの16進数コードで読み上げるので、曲のKEYを理解しにくい。

ステップ入力でデータを入れる場合は、1ステップ入力するたびに、MIDI音源から発音されるように設定しておけば、特に、画面をいちいち確認する必要もないように思われる。これは、BASICのMMLなどのように、1行に複数のパートを並行的に入れていくよりもずっと能率的だし、リピートや複数の小説のコピーなど、曲の入力はかなり楽にできる。リズムデータの入力も音符と同じ感覚で入力できるので、リズムとステップタイムなどの関係がつかめれば、これも何とかできそうである。

データ作成のためのコマンドが数多く用意されているのはありがたいのだが、コマンドを調べるのにいちいち画面に表示させて音声で確認するには、そうとうの時間がかかるので、普段よく使うものは覚えてしまった方がよさそう。MIDIに

関するスペシャルコントローラもメニューの中から選ぶよりは、直接コマンドを入力の方が能率的ではあるが、GSの音色番号を覚えるのもかなり大変である。とはいうものの、多数市販されているMIDI用ソフトで、音声で使用できるものといったら、やはりステップ入力でキーボードから打ち込めるレコンポーザぐらいしかないのが実状であるので、画面の出力をMS-DOSの標準出力にするなど少し工夫をすればもっと音声ソフトとの相性もよくなって使いやすくなるのではと思う。

このソフトを視覚障害者が使うに当たっては、パソコンやMS-DOSが自由に使いこなせて、音声ソフトにも精通している必要がある。思考錯誤を繰り返すことにより、かなり使えるようにはなるだろうけれど、時間と努力がいりそうだ。ということで、視覚障害者のパソコン初心者には、使いやすいとはいえないのが残念である。今後のソフトの改良を期待したい。

カモンミュージックからご寄付いただいたウェルカムバック、使ってみたい人を引き続き募集しています。また、MIDI音源をお持ちでない方には、音源をお貸しいたします。あなたもこの機会に、コンピュータミュージックを体験しませんか？

名前対応表 解毒、もとい、解説にお使ください。

あき	福本 詳万	だすと・びん	長沢 敏
晶子	佐藤 晶子	なで	松村 泰江
あに	広内 隆史	ナミねえ	竹中 ナミ
うさぎ	小谷 晴子	にこちゃん	秋山 奈巳
うめ吉	坂上 正司	箱入り娘	松村 依美子
KAWA	市川 正信	隼人	諏訪 克己
KIJI	木地本 昌弥	ブチトマト	井藤 美名子
クマさん	足立 雅	MIT	小山 充
げんた	桜井 龍一郎	みゅう	亀山 英昭
コム	大縄 勝	ゆ	内田 優子
スラッシュ	品川 博之		